



第二ぎんなん便り

社会福祉法人つなぐ育成会
熊本市第二ぎんなん作業所
平成28年10月27日発行
第365号

毎日を幸せに思う

最近あまり聞かなくなりましたが、以前は、よく「恵まれない子に愛の手を」といった言葉が言われていました。障がいのある人にも、かわいそうという同情の目が向けられ、下通を歩けば、このかけ声で募金があつたりしていました。



縁あって、大学1年からずっと障がいのある人たちと関わって来ましたが、誰がどんな立場や基準で「恵まれない」「かわいそう」と決めるのだろう、障がいのある人たちは恵まれない人やかわいそうなのだろうか、疑問や違和感を感じていました。

一番たくさん関わって来た知的に障がいのある人たちは、自分のことを恵まれないとか、かわいそうと思っているのだろうか。

自信を持って、答えは「NO」だと言えます。これまで関わって来た学校の子もたちや現在の作業所の利用者の人たちを見ても、実に毎日楽しそうに送っています。

この人たちが、もしも障がいを理由に自分のことを恵まれないとかかわいそうとか思っているならば、それは、周囲や社会からいわれのない偏見や差別を受けた結果ではないかと思えます。

先日、ネットで興味深い、そして、うれしくなるような記事を見つけましたので、ご紹介します。

「ダウン症のある人、毎日幸せに思うことが多い人が90%以上！仕事に満足している人が80%以上！！」 日本テレビ 2016. 10. 13 18:58

生まれつき染色体に異常があることで起きるダウン症。今回、初の大規模アンケート調査で、ダウン症のある人たちの実情が見えてきた。諏訪中央病院・鎌田實名誉院長が解説する。

■「幸せに思う」90%以上に

今月5日、東京・文京区でダウン症のある人の教育や就労、福祉環境について考えるシンポジウムで、発表されたのは、厚生労働省の研究班が去年行った、ダウン症のある人たちを対象にした、初の大規模アンケートの結果だ。

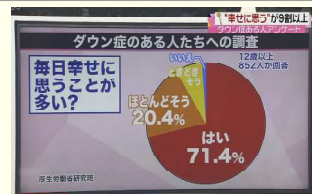
そのアンケートからは、ダウン症のある人たちの実情がみえてきた。アンケートの結果の一部を見てみる。(回答は、12歳以上の852人)

(1)「毎日幸せに思うことが多い？」

はい…71.4%

ほとんどそう…20.4%

「はい」と「ほとんどそう思う」と答えた人を合わせると、90%以上にのぼる。



(2)「仕事をしていて、満足な気持ちがありますか？」

はい…66.0%

ほとんどそう…21.7%

こちらも、「はい」と「ほとんどそう思う」と答えた人はあわせて90%近くにのぼった。

この結果は、医師である鎌田氏でも予想外だったが、とてもうれしく感じたという。19歳以上の人の7割以上が、一般企業や作業所などで働いているが、これほど多くの人が働きながら、満足を感じているというのはすばらしいものだ。鎌田氏は、医師として、ダウン症のある人と向き合うことが多いそうだが、みんな元気で明るく、1人いるだけで周囲の空気を良い方向へ変える力を感じるという。

■健常者と変わらない生活

森田さん(44)は、横浜市にある障害者の就労を目的としたカフェで、15年ほど前から他のダウン症の人たちと一緒に働いている。このカフェにはアロマハンドケアというサービスもある。

直接、お客さんの手や腕にアロマオイルを塗って、リラックスさせるというもので、カフェの施設長によると、森田さんの柔らかい雰囲気のアロマには向いているという。森田さんに、仕事をしていて、うれしかったことを聞いた。

「お客さんに良い感じだねって言われるとなんとなく、私も良い感じかなって思っています。うれしいなという感じはしますね。」

森田さんは、週に5日働きながら、ダンスや野球観戦など趣味も豊富で、充実した毎日を過ごしているという。健常者と変わらない生活を送っている。

※紙面の都合で、一部を割愛しています。詳しくは、<http://www.news24.jp/articles/2016/10/13/07343576.html> をご覧ください。

ダウン症の人だけでなく、他の知的に障がいのある人たちも同じだと思います。

この人たちの表情や心が曇ることがないように社会をつくるのが、近くで関わって仕事をする私たちの責任や使命ではないかと思っています。



楽しかった一泊旅行

恒例の一泊旅行、今年は大牟田・柳川方面に行きました。大牟田市動物園、アルミ缶工場見学、果物狩りなどで、日頃の疲れを癒やしつつ、大いに楽しんだ2日間でした。

初日は道の駅おおむたで昼食のあと、大牟田市動物園を見学しました。レッサーパンダ、ホワイトタイガーなど珍しい動物たちにみんな興味深げでした。

宿泊は、柳川の観光名所、御花近くのかんぽの宿。夕食とカラオケで楽しい時を過ごしました。

翌日は、昭和アルミニウム缶(株)大牟田工場で、日頃のリサイクルで関係の深いアルミ缶のできるまでリサイクルの仕組みなどを学びました。

午後は熊本市河内の「優峰園」で昼食のあと、果物狩り。この時期は主に梨狩りですが、みかんも実っており、両方食べることができました。昼食後でしたが、梨やみかんをたくさん賞味し、お土産の梨を手に帰路につきました。

今回は、移動手段の関係で利用者だけの旅行でしたが、特にトラブルもなく、好天に恵まれ楽しい旅行でした。(太田家)



大牟田動物園



楽しみな夕食 かんぽの宿



昭和アルミニウム缶
大牟田工場



みかん&梨狩り



熊本支援学校から実習生

熊本支援学校2年生の和田素直くんが11日から18日までの6日間、現場実習に来ました。

作業所は大人の人ばかりなので、みんなからかわいがられ、いろいろな作業で力を出していました。学校の勉強や作業学習もしっかりがんばってくださいね。



リサイクル作業



利用者と一緒に

熊日すばいすに、作業所の製品が紹介

前月号でもご紹介しましたが、熊日すばいすの取材があり、10月7日付号の1面と2面に、竹製品が大きく紹介されました。

反響は大きく、問い合わせや注文の電話がたくさんかかってきています。

■竹製品の注文、問い合わせ

現在、在庫すばいすがほとんどなくなり、せつかくの注文に応じられない状態になっています。

UMU、熊本県物産館、国際交流会館、現代美術館などに製品を出していますが、どこも売り切れの状態となっています。

■農業公園「くぬぎの丘マルシェ」

10日(体育の日)。

すばいすをご覧になったお客様で、すぐに売り切れになる製品が多く、お出でになったお客様には申し訳なく思っています。



くぬぎの丘マルシェ

■精力的に製作中ですが、

注文に応じられるよう、現在、精力的に製作中ですが、何分、手作業なのでできる数に限りががあります。申し訳ありませんが、もうしばらくお待ちくださいませ。(松下・前田)

カボチャの無人販売

たくさんはできないけれど、作業所で収穫した野菜(今回はかぼちゃ)を、作業所前に無人販売



所を作って販売をしました。2~3日で完売でした。今後も何か収穫があったら出したいと思います。



先日、作業所の近くを歩いていると、ほのかに甘い香り。翌日、いつもラジオ体操をする近く公園に行くと、キンモクセイとギンモクセイが花を咲かせて甘い香りを漂わせていました。

キンモクセイというと、「モクセイの花咲く頃に・・・。〇〇のおばちゃん 今日また 笑顔をはこんでいるだろな・・・。」という昔テレビでよく流れていたCMが頭に浮かんで来ます。

暑い日もありましたが、ようやく秋が深まりつつあります。ゆく秋を惜しみつつ楽しみたいですね。